

- ① 配本希望部数をご記入のうえ郵送またはFAXにてご連絡をお願いいたします。
希望部数を優先して配本しておりますので、必ずお申し込み下さい。
- ② 委託期間内返品可 配本後到着の注文書を注文扱いにて出荷させていただきます。
- ③ ★印の図書は特にご注目下さい。平積み頂ければ幸いです。
- ④ 小局ホームページより、「新刊のご案内」最新号がダウンロードできます。

帖合・番線 部数 法政大学出版局 2020年3月6日配本 定価5500円(本体5000円+税) A5判上製・208頁
塚本英樹 著

日本外交と対中国借款問題 「援助」をめぐる協調と競合 ISBN978-4-588-32605-9 C3021

日露戦争後から第一次世界大戦終結期までの日本の中国大陸への経済的進出を、勢力圏外交と借款問題の視角から分析する外交史研究。中国の権益をめぐって欧米列強との競争が熾烈になるなか、日本はどのような戦略をとったのか。鉄道の敷設や幣制改革など具体的事例をもとに、満洲権益と中国本土への進出がいかなる競合関係にあったのか究明する。 【日本近代史・外交史】

☆関連書：河西晃祐『帝国日本の拡張と崩壊』、李穂枝『朝鮮の対日外交戦略』（小局刊）。

帖合・番線 部数 法政大学出版局 2020年3月25日配本 定価5500円(本体5000円+税) A5判上製・464頁
加藤泰史、小島毅 編

尊厳と社会（上） ISBN978-4-588-15107-1 C1010

★ 上巻では、「尊厳ある社会」を構想する上で、主に制度設計の基礎になる議論を提示する。概念史編は、日本や中国における「尊厳」という言葉をめぐる議論、文学表現における問題、そして内外の哲学・倫理学における最新の成果を紹介する。生命政策編は、特に日本の現状における生命倫理についての問題を指摘し、脳神経科学と道徳、動物の尊厳などを論じる。環境政策編は、環境問題だけでなく自然概念の問い直しを行う。 【哲学・社会】

☆関連書：加藤泰史編『尊厳概念のダイナミズム』、M. クヴァンテ『人間の尊厳と人格の自律』（小局刊）。

帖合・番線 部数 法政大学出版局 2020年3月25日配本 定価5500円(本体5000円+税) A5判上製・464頁
加藤泰史、小島毅 編

尊厳と社会（下） ISBN978-4-588-15108-8 C1010

★ 下巻では、「尊厳ある社会」を構想する上で、この社会に生きる人々に関わる、より具体的なケースを取り上げる。原爆被害者、ハンセン病患者の隔離、DV、日韓問題と慰安婦と芸術表現の自由、障害者倫理学、認知症患者の意思決定、高齢者の介護、終活と死、ケアとジャーナリズム、働き方と企業倫理など。果たしてこれらに「尊厳」はどのように関わるのか。上下各巻に日本語で読める文献の読書案内を付す。 【哲学・社会】

☆関連書：田中拓道編『承認』、ハーバーマス『人間の将来とバイオエシックス』（小局刊）。

帖合・番線 部数 法政大学出版局 2020年3月25日配本 定価4950円(本体4500円+税) 四六判上製・384頁
ミカエル・フツセル 著／西山雄二、伊藤潤一郎、伊藤美恵子、横田祐美子 訳《叢書・ユニベルシタス 1111》

世界の終わりの後で 黙示録的理性批判 ISBN978-7-588-01111-5 C1310

★ 核の脅威と地政学的緊張、環境破壊と地球温暖化——〈世界の終わり〉は、いまや宗教的預言でも科学的予測でもなく、今ここにあり身体的に知覚され経験されるカテゴリーである。〈世界の終わり〉まで生き延びるためではなく、〈世界の終わり〉とともに生きるために、政治的なもの、社会的なもの、人間的なものとの交差する地点にあらわれる破局的主題と対峙し、近代の諸概念を根源的に問い直す哲学的挑戦。 【哲学・思想】

☆関連書：G. アンダース『時代遅れの人間』『核の脅威』、H. ヨーナス『生命の哲学』（小局刊）。

帖合・番線 部数 法政大学出版局 2020年4月上旬配本 定価3960円(本体3600円+税) A5判並製・296頁
安孫子 信 監修／法政大学江戸東京研究センター 編

風土(FUDO)から江戸東京へ ISBN978-7-588-78012-7 C1352

哲学者と辻哲郎が構想し、地理学者オギュスタン・ベルクが発展させた〈風土学〉の方法論に基づき、世界の研究者たちが江戸＝東京を論じた国際シンポジウムの記録。哲学、建築学、都市論、文学、美学と多岐にわたる議論が交わされるなかで、和辻が述べた「日本の珍しさ」がよりポジティブに、発展的なかたちで立ち現れる。オリビックを目前に控えた都市東京を深く知るための叢書、第2巻刊行！ 【都市論・建築】

☆関連書：陣内秀信監修『EToS叢書 1 新・江戸東京研究』（小局刊）好評発売中！

帖合・番線 部数 法政大学出版局 2020年4月上旬配本 定価3960円(本体3600円+税) A5判上製・256頁
法政大学大原社会問題研究所、榎 一江 編著

法政大学大原社会問題研究所百年史（仮） ISBN978-7-588-62542-8 C1330

1919年2月9日、大原孫三郎によって創立された大原社会問題研究所は、社会問題・労働問題の調査研究のみならず、国内外の図書・資料収集、各種年鑑・紀要・叢書の編集刊行、シンポジウム・セミナーの開催、国際交流といった幅広い活動を展開してきた。創立100周年を迎え、環境・格差・ジェンダー・エスニシティなど現代の諸課題への取り組みもますます注目を集める研究所の歴史をふりかえる。 【社会問題・労働問題】

☆関連書：『福祉国家と家族』『成年後見制度の新たなグランド・デザイン』『戦時期の労働と生活』（小局刊）。

ご担当者様 氏名： [] 担当ジャンル： [] TEL： [] E-mail： []

* 配本部数等で事前にご連絡する場合がございます。上覧にご担当者様氏名・TELをご記入下さい。

* 宛名ラベルの内容に変更がございましたらお知らせ下さい。次回以降訂正致します。

* 今後、新刊内容のデータ等をeメールにて配信させて頂く場合がございます。よろしければメールアドレスをご記入下さい。